

現場レポート

陽子線がん治療施設整備事業工事

基礎工事部 主任 児玉 晃

【工事概要】

: 工事名称	陽子線がん治療施設整備事業
: 工事場所	名古屋市北区平手町 1-1
: 発注者	名古屋市
: 設計	株式会社久米設計
: 元請	鹿島建設株式会社
: 工事内容	場所打ち杭工事
: 工期	平成 22 年 3 月 3 日～平成 22 年 3 月 26 日

【杭仕様、工法】

: 工法	アースドリル拡底工法 (MED 工法)
: 使用機械	アースドリル (MH5510B,KH180) 各 1 台 クローラークレーン (7080) 2 台、ミニクレーン 2 台 0.7 m ³ バックホー 2 台
: 杭本数	52 本(拡底杭 27 本、直杭 25 本)
: 杭径	【軸径】 φ 2,300 【拡底径】 φ 2,800～φ 3,100
: 総掘削長	708m
: 総残土量	3,350 m ³
: 総生コン量	3,038 m ³

ご安全に。今回のレポートは名古屋市北区に建設中の東海地方初の「陽子線がん治療施設」です。陽子線治療は従来の放射線治療に比べ、副作用が少なく、切らなくて治療できる患者にやさしいすばらしい先進医療なのですが、全国にまだ 7 箇所しかありません。残念ながら、東海 3 県には、同種の施設はありませんでした。

この工事は当初 2009 年 11 月に工事着工予定でしたが、同年 9 月 18 日に必要性や採算性に疑問があるという理由で河村市長より工事凍結になりました。同年 12 月 31 日に河村市長より事業継続の判断がなされたことに伴い工事再開が決定し、3 月 2 日に起工式が行われ翌日から場所打ち杭工事を 3 月 26 日まで行いました。

事業凍結期間中においては社内、協力会社の皆さんに事業続行に向けての嘆願書の署名を快く協力をして頂きましたことお礼申し上げます。

施工方法はアースドリル拡底工法 (MED 工法) で行いました。工期がない工事であった為、アースドリル機 2 台、相判クレーン 80 t 吊クローラークレーン 2 台、生コン打設相判

として4.9t吊りミニクレーン2台を使用しました。

搬入当初は杭施工、鉄筋籠の作成共にペースに乗れず（特に鉄筋籠が外側の籠の内側に一回り小さい籠を建て込むダブル筋だったため建て込みに苦労した）、協力会社の(有)大當重機、(有)テコ大西の頑張り、社内のオペレーター（松脇^ハ、丸尾^ハ、野中^ハ、岩田^ハ、谷田部^ハ、池田^ハ、坂口^ハ）の協力、会社のバックアップにより軌道に乗せて行けました。

すべての杭が大口径（φ2,300）で、掘削長が短いため施工サイクルが早く5～6本/日の施工を駆けずり回って行いました。掘削機、クローラークレーン、ダンプ(60台)、生コン車(60台)の動線の確保と機械配置に苦労し続けましたが午前と午後に管理者間(坂口課長、太田課長、立松職員)で打合せを行い全員に周知し無事故で工事を終えることができました。

工事中は当社の作業員だけで50人近くになることもありました。また、「陽子線がん治療施設建設工事」でアースドリル機を含めて当社のクローラークレーンが4台、隣の「西部医療建設工事」（2年前に当社で杭を施工）で当社の大型クローラークレーンが3台入っており、見渡す限り(株)ミックのクレーンが並んでいました。今回の現場のように同敷地内に2現場隣接しているという特殊な状況下で工事を行ったのは初めてで良い経験になりました。

施工中には鹿島建設(株)様からの暖かく且つ厳しい指導があり、とても勉強になりました。特にマナー、ルールについて厳しい指摘を数回受けました。1つ目は現場から休憩所に戻ってくる時に作業員がポケットに手を入れていたというものでした。その後は皆からの意見でポケットに手を入れないように全員のポケットを安全ピンで留めて作業を行いました。2つ目は工程を焦るあまりに朝礼前に許可なく作業の準備を行ってしまい作業中止を命ぜられました、そして午前中皆で周知会を行い午後から再開させて頂きました。2つとも些細なことではありますがとても大事なことであり今後も絶対守っていきます。

まだまだ毎日の作業の中に改良、改善できる点が多々あります。杭の品質に関するトラブルはもちろんですが、施工中に受ける指摘をひとつずつ減らしていけるよう今後もがんばります。



関係者集合写真



ダブル筋建て込み状況



現場の安全旗

名古屋市

陽子線がん施設一転建設

財政負担軽減 12年度に診療

「何村たかし名古屋市長は十一日、建設を凍結していた「陽子線がん治療施設」の事業を継続し、二〇一二年夏に診療を始めることを決めた。本年度中に着工を促し、地域の医療機関との連携で、外注仕様型を導入し、財政負担の軽減を目指す。

陽子線は癌の中心部で効くことが特一。市は当初、一階建ての立派な施設をがんセンター、梅井、藤岡原などで患者は年八百人程度を想定し、約十億円を計画中だったが、昨年度は約二億

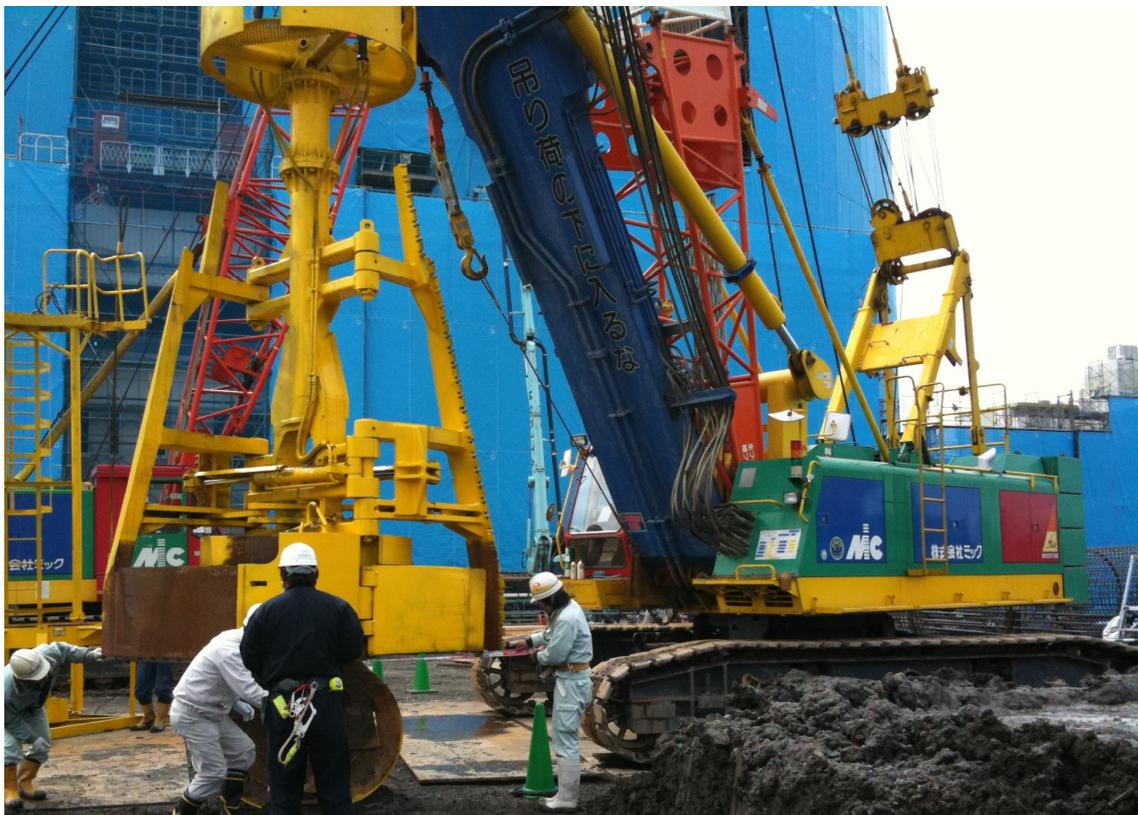
がんセンター等の施設と比べて、半分の費用で済ませる。陽子線がん施設や東海地区をめぐり、半額のある名古屋に治療施設への患者の増加



中日新聞社
名古屋市中区三の丸一丁目9番1号
〒460-8511 電話 852120110811



元日の事業継続の新聞記事



拡底径キャリブレーション